

NEWSLETTER

📖 特集：2025年春着任教員紹介 Part1

【6月号】もうすぐ科研費シーズン！

梅雨の季節となり、夏の科研費シーズンが近づいてきました。リサーチオフィスでは、科研費に興味・関心をお持ちの先生方に向けて、各種イベントの開催準備を進めています。

さて、ニュースレター6月号では、APSで国際関係論を研究される3名の先生をご紹介します。

自己紹介

大分と同じくらい温泉で有名な群馬県出身です。ノーステキサス大学政治学部のPh.D.課程修了後、この4月にアジア太平洋学部の助教として着任しました。

趣味はロックを中心とした音楽鑑賞、ギター演奏、サッカー観戦です。

研究内容

専門は国際関係論で、特に国家間紛争が発生しやすくなる条件についてデータ分析を行っています。博士論文では領土紛争が始まる原因とその後のエスカレーションへの影響について分析しました。現在は、政治体制が紛争の発生に与える影響や、国際司法裁判所(ICJ)を通じた領土紛争解決が起きやすくなる条件について関心を持っています。



アジア太平洋学部
渡辺 司 助教

メッセージ

APU学部生へ

人間として成長するには、何事も恐れずチャレンジすることが大切です。迷ったらとりあえず行動に移してみましょう。みなさんは自分が思っている以上に可能性に満ち溢れているはずです。

APU大学院生へ

大学院では疑問に対して多角的な視点から深く思考することが求められます。その点において、多様なバックグラウンドを持つ教員と学生がいるAPUで学ぶことはたくさんあると思います。この環境を最大限利用して、共に新しい知を生産していきましょう。

APU志望受験生へ

グローバル化した今日の社会では、異なる文化や考え方を持つ人を尊重し、多様な人々と協力しながら課題に取り組む能力が求められています。まるで海外留学していると錯覚してしまうようなAPUのキャンパスで、そのような能力を身に着けつつ異文化交流の楽しさを満喫してください。

自己紹介

初めまして。この4月よりアジア太平洋学部で教えることとなりました一方井克哉（いっかたい かつや）と申します。それまでは政府職員（主に外務省）として働き、海外では東南アジア、アフリカ、欧州での勤務経験があります。そうした実務経験が学生たちの学びに役立つのであれば大変嬉しく思います。

趣味は旅行、観光地巡りで、その土地の歴史や文化に触れるのが大好きです。この機会に大分や九州のことをより深く知ることを楽しみにしております。



アジア太平洋学部
一方井 克哉 教授

研究内容

私の専攻の国際関係論の中でも、APUでは国際協力論と国際機構論に焦点を当てています。前者については、開発協力を如何に効果的に行うべきかの最新の動向・研究に関心を持っています。後者については、欧州や東アジアで進行中の地域統合の動きに焦点を当てています。

メッセージ

APU学部生へ

4月にAPUに来て、皆さんはとても恵まれた設備と環境で学生生活を送れていると感じました。様々な国籍の学生と日常を過ごすことができるのは、計り知れないAPUのメリットです。ぜひそれを最大限に活用して、自身のキャリアデザインに生かしてってください。

APU大学院生へ

APUの大学院には、社会人経験の豊富な各国からの国際学生が多いと感じています。そのような学生たちとの交流は、想像以上の学び合いの効果があると思いますので、そうしたメリットを最大限に活用してください。

APU志望受験生へ

まずは一度、APUのキャンパスを実際に訪れて、APUの素晴らしさを体感してみてください。百聞は一「感」に如かずです！

自己紹介

私は台湾、フランス、英国で学んだ政治学者です。多くの学者仲間は、自分の研究テーマへの興味から大学院への進学を目指しましたが、私は大学院を目指さず、罪悪感に駆られることが多々ありました。大学を卒業した後、とても無知だと感じ、国際関係論（IR）をさらに勉強したいと思いました。そういう意味で、大学教員として働くことは素晴らしい自己療法であり、混乱した学部生だった過去の自分を受け入れる助けになりました。

台湾では、私の世代の男性は軍隊に入隊することが義務付けられていたため、中国福建省に近い沖合の島に駐屯する陸軍軍官として、学術以外の短いキャリアを積みました。この経験が学問的探求を形成し、批判的安全保障論が主要な研究分野となりました。

IRはロゴス中心主義的、近代主義的、人間中心主義的な基盤を持つ学問分野であるため、私の過去と現在の研究は、これらの前提を解き、学び直すという継続的なプロセスを含んでいます。別府で学術キャリアをスタートさせた後、京都の伝統ある大学に転職しました。前任校では国際化推進が成功しなかったことを後悔していますが、この10年間で日本語基準学生とのより良い協力の仕方を学べたことを嬉しく思っています。

研究以外では、家族や友人と過ごす時間を楽しんでいます。内向的な性格ですが、同僚や学生たちと過ごすあらゆる機会を大切にしています。

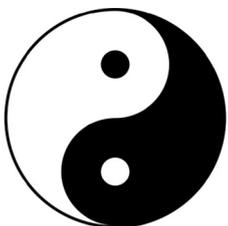


アジア太平洋学部
陳慶昌 教授

研究内容

研究分野は、批判的安全保障論、知識社会学、東アジアにおける国際関係です。主な研究プロジェクトは、IRのメタ理論的基盤やグローバル政治の実践における調和不調和を再考するための宇宙論的アプローチとしての東洋医学の可能性を検証するものです。主に東洋医学の存在論的、臨床的想像力を利用しています。[Krickel-Choi, Chen, and Bukh \(2024\)](#)の表1に示されているように、IRはウェストファリア条約（1648年）から生まれた近代主権国家システムによって形成されてきました。従来のIRの根底にある世界観は、物事は本質的な性質を持つ自律的で安定した存在であると仮定しています。その結果、学者や実務家は世界を二元的で対立的な用語でとらえる傾向があります。人や集団は通常、「インサイダー」（人間、国民、エリート、白人、男性、異性愛者など）と「アウトサイダー」（人間以外、外国人、大衆、有色人種、女性、同性愛者など）のどちらかに分類されます。メタ理論レベルでは、このような二項対立はニュートン古典力学の影響を受けており、それは物質と力といった基本的な二項対立に基づいています。物質は静的であると考えられているため、変化をもたらすには外的な力が必要です。国際政治の文脈では、この考え方は、既存の紛争や「ホットスポット」に対する自然な解決策として、外部からの介入を正当化します。しかし東洋医学では、物事は移ろいやすく相互依存的なものであり、常に大きな全体の一部であるとみなす関係存在論に貫かれています。これは陰陽図に見ることができ、陰は陽が存在するときのみ存

在し、逆もまた然りです。さらに、陰は陽の内と外に同時に存在します（逆もまた然り）。陰陽は互いに内包し合い、変容し合い、「道」を成り立たせています。陰陽弁証法は、宇宙における「気」の絶え間ない集合と分散によって生かされています。物質でも力でもない気は、物事に浸透し、繋がり、変容は本質的で内的なものであることを意味します。つまり、本研究は、東洋医学を分析、隠喩、規範性の源として創造的に利用し、政治的対立を「政治的身体」の不調和として検討し、扱うものです。



EAM terms	EAM	Westphalia
Yin-yang	<ul style="list-style-type: none"> • Relational ontology • Non-binary; inclusive • 'Both-and'; 'I am in you and you in me' 	<ul style="list-style-type: none"> • Essentialised and fixed ontology • Binary; exclusive • 'Either-or'; 'you are with us or against us'
Qi	<ul style="list-style-type: none"> • Neither matter nor force • Transformation is inner and immanent • All be(com)ings are interconnected through qi • Monist cosmology 	<ul style="list-style-type: none"> • The matter-force dichotomy • Matter is static; external force is needed to propel change • Already formed, independent beings • Newtonian classical mechanics
Body	<ul style="list-style-type: none"> • A collection of relationships, resonance, and interpermeation • Image in IR: interbeings 	<ul style="list-style-type: none"> • A physical container that encloses the autonomous state; exclusionary territories • Image in IR: Leviathan
Organs	<ul style="list-style-type: none"> • 'Intersecting matrixes of resonating human activity' that produce functions • Embedded in their relationships with other parts of the body 	<ul style="list-style-type: none"> • Fixed, measurable physical structures that perform particular activities • Anatomic objects, possess-able or trade-able by the state body
Harmony	<ul style="list-style-type: none"> • Yin-yang is of relative balance • A body becomes a body only if organs are interdependent and function in unison with each other 	<ul style="list-style-type: none"> • 'If the problem is about power, the solution is to have more power' • A given organ-territory must be under the state body's exclusive control
Resonance	<ul style="list-style-type: none"> • To evoke change in other things through facilitating the flow of qi; border-crossing • Functional cooperation as a method of resonance in IR 	<ul style="list-style-type: none"> • Competition for exclusive control over disputed organ-territory; border-closing • Cooperation as a way to preserve state sovereignty

表1

メッセージ

APU学部生へ

学びへの感受性が最も高い年齢でAPUで学ぶことは、一生に一度のかけがえのない経験です。決してストイックである必要はありませんが、私の好きな格言は「錆びつくより燃え尽きよ」（馬偕記念醫院）です。なぜなら、私たちは存在することを当たり前だと思てはいけないし、人生は今この瞬間や他者との出会いによって形作られるものだからです。APUがそのような出会いの大切な一部であることに感謝し、皆さんの学びの旅の良き伴走者でありたいと願っています。

APU大学院生へ

あなたの研究が理論主導型であれ政策主導型であれ、現実の世界に影響を与えるものであることが不可欠です。つまり、提案したプロジェクトを完遂することによって、あなたが選択したテーマに対して理論的・実践的な意義をもたらす必要があります。言い換えれば、自分の研究がなぜ価値があるのかを示す必要があるのです。単に「このテーマに関する研究は少ない」というだけでは不十分です。

もしあなたが国際関係論（IR）を学んでいるのであれば、世界政治を国家間関係だけで捉えるべきではないことを忘れないでください。それはむしろ、私たちが他の人間や自然界とどのように関わるかに深く関わっています。現代世界で多くの危機を引き起こしてきたウェストファリア体制に基づく理論や概念を一度手放すことで、より多くの成果が得られるでしょう。

APU志望受験生へ

あなたが日本出身であっても海外出身であっても、APUは他ではなかなか得られない多様性に富んだユニークな学習環境を提供しています。しかし、この環境を最大限に活かすためには、あなた自身が積極的に仲間の学びにも貢献していく姿勢が求められます。私はAPUの学生と共に学ぶことをとても楽しんでいて、きっと皆さんもそう感じるでしょう！